

坂本軌道工業(株)

安全を担うからこそ自社の社員を大切に

■工部・尼崎の成長を軌道で支える

昭和36年3月に現社長・坂本徹さんの父親である坂本悦美氏が創業。昭和49年12月に法人化した。同社が創業した当時の尼崎市は、臨海地域に大規模工場や発電所が集積し、阪神工業地帯の中核として日本の高度経済成長を支えていた。大規模工場は港から陸揚げした原材料や、トラックでは運べない鉄などの重量物や長尺物を、貨車を使って工場内を運搬しており、同社は創業より工場内物流のための軌道(産業線)の敷設・整備を手掛けた。

昭和から平成、令和と時代が移り、産業構造が大きく変わった現在でも、工場内の物流用軌道の保守を担っている。

■JR(営業線)の軌道敷設・整備に進出

産業線での実績が認められ対外的な信用が高まると、昭和45年から当時の国鉄(現JR)グループとの取り引きが始まる。



工場内の軌道等の敷設・整備を行う



前列左から3人目が坂本社長

レールや枕木の取り替え、バラスト(砕石)の敷設などを行っている。作業は終電後の夜間がメインで、これらの作業が列車の乗客の安全確保に大きく関わってくる。

坂本社長は「常に緊張感を保ちながら確実に作業を遂行していくことが求められています。安全輸送を支えているという自覚を持って事故防止に努めています」と力強く語る。

■社員がいきいきと働く職場へ

夜間の仕事が多いことから、同社では人材の定着・確保が経営課題となっていたため、福利厚生の実施に力を入れる。健康診断を全額会社負担で、年2回全社員が受診。診断結果が思わしくなかった社員については、数値が改善されるまでフォローを行う。健康診断後には感染症予防などの研修会を開催してきた。

月2回の職長会議では、随時現場から上がってくる要望に耳を傾ける。これまで空調服の導入や自動販売機の飲料の会社一部負担

などを行い、社員からは好評を得ている。

不足する人員に対しては外国人を正社員で雇い入れ、他の日本人社員と差をつけることなく社会保険の加入や資格取得の教育も行う。日本人社員が外国人社員に指導を行う際、改めて作業の原理原則・基礎を確認することから、両者にとってレベルの向上が図られるとともにコミュニケーションが活発化し、職場の雰囲気も明るくなったという。

今年3月には「健康経営優良法人2021 中小規模法人部門」の「プライト500」として国から表彰された。これは優良法人の中でも特に優良と認められる上位500社に対して授与されるものである。

「列車の安全運行を担うには、それに携わる人間が健康でないと質の高い仕事ができません。今後も健康経営に力を入れていきます」と坂本さん。仕事への誇りと使命、社員への愛情が伝わってきた。

(福島)

さかもと とおる
坂本 徹 代表取締役(65)

【会社概要】

事業内容 軌道の敷設・補修
所在地 大浜町2-13-3
TEL 06-6418-1577
FAX 06-6419-0608
HP <https://sakamoto-kidou.co.jp/>